

### 第三章 薔薇の毒、原液実験

闇司祭 「ごきげんよう。新たな被検体の様子はいかがかしら？」

ナース 「ご覧の通りでございます。射精回数二回、回復実験もすでに終了しております」

闇司祭 「記録は？ 見せて」

女医 「カルテはこっち」

闇司祭 「あら、ありがとう」

女医 「どういたしました。まったく、来るのが早いよ。もう少し、わたしたちを信頼してくれてもいいのに」

闇司祭 「信頼しているからこそ、最初の実験は任せたじゃない。これで文句があるのかしら？」

女医 「大有りでございますよ、パトロン様」

マリナ（ヤバイ……この人、見た目からなにからふたりとは違う……医者とナースのほうが優しかったって理解させられるとか言ってたけど、もうヤバいつてわかる。この人は、本気で私を実験台にする気にいる……人間じゃなくて、物として扱おうとしてる……）

【マリナ、こっそり抜け出そうと画策する】

闇司祭「あら、逃げようとするだなんて悪い子ね。あなたが逃げたら、妹が同じ目に遭うって聞かされなかったかしら？」

マリナ「くっ……」

闇司祭「ナースちゃん、縛り付けちゃって」

ナース「承知しました」

女医「逃げようとしないうがいわよ。この女、本気でぶっ飛んでるから」

マリナ（だからって、どうすれば……）

闇司祭「おとなしくなさい。命まで取る気はないのだから。記録を見る限り、優秀な被検体であることはわかっているし、長いこと求めていたエルフを血を継ぐ者でもあるし……ナースちゃん、毒液の準備を」

ナース「かしこまりました。すぐに」

闇司祭「これまでに経験したことがないくらい気持ちよくしてあげるから、期待してなさ

いね」

女医 「わたしは気付け薬でも準備しとこうかしら」

闇司祭 「その必要はないわ。ないところまでやるから」

女医 「そう……徹底的にやるのね」

ナース 「司祭様、準備完了です」

闇司祭 「あら、そっちを持ってきたのね」

ナース 「通常の薔薇の毒は大量投与しましたから、濃縮した新薬のほうがいいかと」

マリナ 「新薬……？」

闇司祭 「そう、新薬。濃縮されてる分、効き目はすごいわよ。ふふふっ」

ナース 「では司祭様。新薬を注入します」

闇司祭 「ええ、やっちゃって。この精液臭いチンポの出入り口に、いっぱい注いであげて」

ナース「参ります……ぶちゅうっ」

マリナ「んんっ!？」

闇司祭「はい、ドクドクいっちゃうわよ♪」

マリナ（な、なに……さっきと、また感覚が……変なのを入れられてることに違いはないけど……）

マリナ「あつ、あ、あつ……んっ、あつ、あああつ……!」

女医「あーあ、原液実験ならわたしがやりたかったのになあ」

マリナ「くうっ、はああっ……人が大変なときに、そんな呑気な、こと……んんっ!」

闇司祭「気持ちよさそうに、チンポを跳ねさせちゃって♪ 記録通り、相性がいいみたいね」

ナース「そろそろ想定量に達します」

闇司祭「たぶん、この子には入れ過ぎぐらいがちょうどいいわ。勢いもよくしてあげて」

ナース「仰せのままに……びゅるるっ!」

マリナ「んぐううつつ……！」

闇司祭「あらあら、チンポだけじゃなくて身体までビクビクしちやってるわ」

マリナ（熱い……おちんちんもお腹も熱くて、もう気が遠くなりそう……）

闇司祭「少しトリップ気味ね。この相性のよさは驚きだわ」

マリナ「注入終了。注入器を引き抜きます」

闇司祭「せっかくの新薬だから、私も注入したいわ。ちょっと貸して……はい、ぶちゅうう」

マリナ「んあああああつ！」

闇司祭「これでいいでしょ。抜いてあげて」

ナース「注入器を引き抜きます」

マリナ「ふぐっ……！」

闇司祭「ナースちゃん。またすぐ注入できるように準備しておいて」

ナース「はい」

闇司祭「じゃあ、お待ちかねの実験をしていくわよ」

【闇司祭、マリナの股間へ移動】

闇司祭「チンポがビクビク震えて、とってもいやらしいわ。においも濃厚……♪ まずはこれを、手で握って……」

マリナ「んんっ……！ あっ、あ、あうっ……！ んんんっ！」

闇司祭「触っただけで、えっちなおつゆが出てきちゃったわ。これを使って、たっぷりシコシコしてほしいっておねだりしてるみたい」

マリナ「お、おねだり、なんて……」

闇司祭「していないと言うの？」

【闇司祭、指先で亀頭をフェザータッチ】

マリナ「あっ、んっ！ ふあっ！ あああああっ！」

闇司祭「ほら、軽く撫でただけでこの反応なの？ おねだりって思われても仕方がないんじゃない？」

マリナ「あくっ、んくっ……反応してても、おねだりじゃ、ない……あああっ！」

マリナ（もう出そう……三こすり半とかいう言葉があるけど、それ以上に早くイっちゃいそう……）

闇司祭「ちなみに、すぐに打ちやうようなら実験内容を変更して連続射精をさせるわ。だから、我慢できるだけ我慢なさい。ほら、シコ、シコ……

マリナ「あっ、くう、はっ、んはっ、ん、あ、んんっ……！ ダメっ、打ちやう……もう出る、もう出る……っ！」

ナース「僭越ながら、我慢したほうがマリナ様のためかと思われます。司祭様は、そういうお人ですから」

闇司祭「ナースちゃん、あなたも立ってないで手伝いなさい。耳が空いてるでしょ」

ナース「お耳をちゅぱちゅぱしろということですね。では……あああむう、んちゅっ、れるっ、んれるっ……」

女医「わたしも暇だし、反対側を舐めてあげるわ……はむっ、ちゅっ、れろろろっ、れ

ろれろっ……」

マリナ「んっ……つつくっ、はあっ、んあっ、あんっ、ああっ……おちんちんだけでもイキそう、なのに……いつ、ああっ、んあっ、ああんっ……耳まで責められたら……っ！」

闇司祭「あらあら。耳舐めが始まったら、またえっちなおつゆが増えたわ♪ 耳もチンポも敏感で、とってもいやらしいわ。好きよ、あなたみたいな淫猥な子は」

マリナ「ふう、はあ、ああああっ、んああっ……違う、けどお……あっ、んっ、はああっ、んんっ……！」

闇司祭「違うけど、なに？ イカせてほしいの？」

マリナ「そう、じゃ……ああ、んんんっ……ない……」

闇司祭「じゃあ、なんだって言うの？ シコシコを速くしてほしいの？」

マリナ「ち、違う……」

闇司祭「よくわからない子ね……罰として、大好きな亀頭だけをいじくってあげるわ。手のひらを被せて……クチュクチュクチュクチュっ！」

マリナ「あっ、あ、んっ、んああああっ！」



闇司祭「はいはい、クチュクチュクチュチュっ！」

マリナ「あぐっ、んんっ、んおっ、おおおっ、ほおおっ……！」

闇司祭「んふふふっ、ビクビクっらそうなのに、さきつぽはどんどんヌルヌルになっていくわ♪」

女医「あむっ、んちゅっ……あんまり動くと舐めにくいから、ビクつくのはおちんぽだけにしなさい……れるっ、んちゅっ……そうじゃないと、わたしもつとキツイことするわよ……れるっ、んれるれるっ……」

ナース「私はべつに構いませんが……れるるるるっ、れるっ……先生と司祭様がそのような判断するならご命令を聞くしかなくなります……じるるっ、じゆるっ……」

マリナ（耳もおちんちんも、気持ちよすぎる……薬の効果がさつきと違って……っ）

マリナ「はあはあはあ……んんっ！ ああっ！ せめて、おちんちんだけに……それなら、まだ我慢できるかもしれない……あっ、んんっ！」

闇司祭「そう言われても困るわ。あなたに我慢をさせるのは目的じゃなくて手段だもの。それに、快感に悶えてるところを見るのが大好きなのよ。だから、いっぱいビクつきなさい。チンポもギンギンに硬くして、我慢汁もたっぷり出して、私を悦ばせて……ふふ

ふっ」

女医 「んちゅっ、んれるっ……そんなこと言う必要もないくらい、いい姿を見せてくれるわよ。この被検体は……んじゅず、じゆるるるっ、れるちゅっ……」

マリナ 「はあ、んくうっ……ああ、あああっ……はあ、はあ……やめ、て……」

闇司祭 「つまらないことを言っていないで、気持ちよく喘ぎなさい……クチュクチュクチュッ！」

マリナ 「はううっ！ んあっ！ ああああっ！」

マリナ （出したい……でも、出したら連続射精実験に使われる……妹も、ただじや済まないかも……）

マリナ 「んあああっ、ああああああっ、んんっ、はあああっ……！」

ナース 「んれるっ、れるるっ……マリナ様の瞳に涙を確認。快感に耐えられなくなってきたようです」

闇司祭 「いい顔ね、もっと見たいわ。啞えたほうが気持ちいいかしら」

女医 「フェラなら……れるじゅっ、れるるっ……わたしもさっきやったわよ……はふっ、

んぷっ、んじゅるっ……」

闇司祭「条件が違うでしょう。新薬を使ったフェラは、これが初めてになるわ……ああむっ、んじゅっ、ぴじゅっ、じゅるるるっ、はあむっ、れるじゅっ、んじゅっ……んふふっ、チンポがギンギンすぎて顎が大変……はぷっ、んちゅ、むじゅるっ……」

マリナ「あああ、んああああっ……おくちい、ダメえ……手でもイっちゃいそうだったのにい……ひい、はあ、んんっ……!」

ナース「んれるっ、んじゅるっ……出してもいいんですよ……はぷっ、んちゅっ……連続射精実験にはなりますが、いまのつらい状況からは逃げ出せます……あむっ、んじゅっ、じゅるるっ……」

女医「そっちのほうが、おもしろいかもねえ……んれるっ、んじゅっ、はむっ、んちゅっ……」

闇司祭「はむっ、ぢるるっ、ぴじゅぐっ、じゅぷじゅぷっ……でも、この実験も記録にできないともったいないわ……んじゅるっ、れるじゅぐっ……じゅぼじゅぼじゅぽっ……だから、簡単に出してはダメよ……あむっ、んじゅっ、じゅるるっ……」

女医「出しているのよ……んじゅるっ、じゅるるっ……そうしたら、わたしと一緒に連続射精実験ができるわよ……れるれるっ……この司祭よりは優しくしてもらえて、わかってるでしょ……んじゅっ、れるちゅっ……」

ナース「私はどちらでも構いませんよ……んれるっ、れるっ……先生と司祭様のご命令で動くだけですから……はぶっ、んちゅっ、じゅるるっ……」

マリナ「はあはあはあはあはあ……っ」

マリナ（出したい……出したい……これを我慢したら、絶対におかしくなる……気持ちよくてそうなるんじゃないかって、本気で廃人にされる……）

女医「ほらほら、出しているのよ……んちゅっ」

闇司祭「我慢なさい……じゅじゅじゅぶっ」

マリナ「ささやか、ないでえ……あぐっ、んぐっ……!」

ナース「マリナ様は、お耳も敏感でしたね……では、もつと奥まで舌を入れてあげましょう……れろおおおっ」

マリナ「ふんぐっ……! あぐっ! はぐっつ!」

女医「それおもしろそうね。わたしも……れろおおおっ」

マリナ「ひんぐっ、ふんぐあっ……!」

闇司祭「チンポをしゃぶってるのは私だって、忘れてないわよね……じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷ！」

マリナ「あああああああつ！ らめえ、激しくしちゃ……んんんっ！」

闇司祭「じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷ！」

女医「れるれるれるるっ！」

ナース「れるうつ、れるっ、れろおおっ！」

マリナ「イクっ！ もう無理っ……イクっ！ イクうつっ！」

闇司祭「……んぷあつ……イっちゃダメって言ったでしょう？ んちゅっ……れるっ……んじゅるっ……」

女医「あと一歩でイキそうだったのに……」

ナース「ここで追い打ちをかけないとは意外です」

闇司祭「んちゅっ、れろれろっ……実験のためよ……れるっ、少しだけ……んじゅっ、れるじゅっ……手心を加えてあげる……でもお……はむっ、フェラはやめないわよ……じっ

くり……あむっ、弱い刺激を与え続けてあげる……これで少しは我慢できるでしょ……あむっ、んじゅっ」

女医 「そういうこと……はむっ、んちゅっ……じゃあ、わたしも焦らしてあげる……んじゅるっ、れるっ、これでも十分、精液は溜まるだろうし……れえるっ、れろれろっ……」

マリナ 「ああああっ……んふうっ、ふう、ふう……あああああっ……！」

マリナ (この人たち、焦らすのもうまい……強制射精させられるような快感はないけど、射精感が消えない……ギリギリのところで、休めないようにしてる……)

マリナ 「ああああう、んああう、はあああっ……おちんちん、もうちょっと手加減して……」

闇司祭 「ダメよお……れるう、んじゅるっ……手心はすでに加えてるんだから……あむっ、んじゅっ、じゅるるっ、れるっ……んちゅっ……ふあっ、はむっ、んじゅるっ……」

ナース 「マリナ様は、なにをしても感じてしまうんですね……んれろっ、れろおおっ……私もたくさんの人を実験してきましたが、マリナ様が最も感度がいい身体をお持ちだと思います……れるう、んれるっ……」

マリナ 「全然、嬉しくない……はあ、あああああっ……っ」

マリナ（ゆっくりなつた分だけ、耳もおちんちんも、ねっとり舌が絡んでくる……）

闇司祭「れるっ、じゆるるっ、じゅぶじゅぷっ……ああむっ、れるっ、ぷあっっ……イっちゃいそうかしら？ はあむっ……んちゅうっ……我慢汁も震えも止まる気配がないし……じゅぷっ、じゅぽっ、はあむっ……」

マリナ「耐え、られる……まだ、これ、なら……ああ、んんう、ああああっ……」

女医「とてもそうには見えないわね……れろおおおっ……れるううう……れろっ、れろっ……」

マリナ「くっ、ふああっ……あなたには、そう見えるだけでしょ……んんんっ！」

闇司祭「虚しい反論ね、んぷっ、んじゆるっ……背中をのけ反らせながら言う台詞じゃないわ……あむっ、んじゆるっ、ぢゅりゅっ、ぢゅりゅりゅっ……」

マリナ「あくっ、んんくっ、はあ、あああっ……背中がのけ反っても、我慢できる、ことに……あああっ……変わりは、ない……んんっ、あっ、んんんうう……っ」

闇司祭「なら……ぢるるう……んぷああ、激しくしようかしら」

マリナ「なっ、なんで……っ！」

闇司祭「じゅろじゅろっ……なんであつて、あなたは被検体で、これは実験なのよ？　すぐに射精されたら実験にならないから、じわじわ責めてあげてるだけじゃない。忘れたの？」

マリナ（そう、だった……恋人同士のセックスでも前戯でもない……）

マリナ「忘れて、ないわ……ただ、あなたが虚しい反論って言うから……はあはあはあ……」

闇司祭「焦らすのも限界かしら？」

女医「さつき激しくすぎたせいね」

闇司祭「……んじゅっ、はむあむっ……射精させてくださいってかわいくおねだりできたら、射精を許可してもいいわよ……はむっ、ぢろろっ……ただし、かわいく、おねだりできただけど……じゅろじゅろっ……」

マリナ「それには、乗らない……んあつ、あああつ……」

闇司祭「どうして……むじゅずっ、じゅるじゅるっ、ちゅっ、ちゅばちゅばっ……さつきは出したって叫んでたじゃないの……んじゅう、れるじゅっ……」



マリナ「あれは……薬のせいで、叫ばずにはいらなかっただけ……いまは違う……から……はあはあ……」

マリナ（身体に力が入らないのに、おちんちんだけバキバキになってる……）

マリナ「はあはあ……だか、らあ……んっ、あああっ……まだ射精は、しな、いい……あっ、んっ……！」

女医「イカせちゃった方がいいんじゃないかしら……れろろっ、んれろっ、れろっ……とても、耐えられそうにはないわよ……あむっ、んちゅっ……このままだと、意図しないところで暴発しちゃうかも……あむっ、はあむっ……」

闇司祭「それだったら、射精させちゃったほうがいいのかも……ぢふふふっ、ぢふう……」

マリナ（どう、なるの……？ この人たちが満足するタイミングなら、終わりになるの……？ たぶん、そうよね……この人たちの判断で射精させられたら、終わりでいいのよね……？）

マリナ「はははっ……はあ、はあ……」

闇司祭「あら、笑い始めちゃったわ」

ナース「記録しておきましょうか」

闇司祭 「どうして笑っているかが重要だわ」

女医 「大方、わたしたちに射精させられたら終わりとも思ってるんでしょ」

マリナ 「違うと言うの……？」

女医 「想定より早い射精になるんだから、連続射精実験になるのは当然でしょ」

マリナ 「そんな……！」

マリナ （ここまで我慢したのに……連続実験にならないようにしたのに……）

闇司祭 「残念ね♪ たっぷり射精して、連続実験まで付き合ってもらおうわ……あむう、じゅる、じゅるっ、じゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷじゅぷっ！」

マリナ 「あぁっ、んんっ！ 出るっ……！ 出るっ……！ 激し、すぎ……っ！」

女医 「こっちも、奥まで……れろおおおっ、れろれろれろっ、れろう、んれろっ………！」

ナース 「たっぷり射精していただきます……れろおおお……れろれろっ、んれるっ、れろっ、れろおお………！」

マリナ「あああつ、んぐつ、ああつ、ふあああつ！　イクつ、イクイクつ……！　おちんちんイっちゃう……おちんちんイっちゃう……っ！」

闇司祭「しっかり昂ぶってからイキなさい……！　ぢゅぷぢゅぷぢゅぷぢゅぷっ！　ぢゅぷぷっ！　ぢゅぷるるるるるるっ！」

マリナ（おちんちんの先っぽ、熱くなっちゃったあ……もう出る、もう出る……精液、出ちゃう……っ！）

マリナ「あああああああつ！　イクうううううううううっ！！！」

闇司祭「んぶっ……！　んぷつ、んつ、んぷぷぷぷぷっ！」

マリナ「あああ、んああああつ、あああああああつ……！！」

闇司祭「んく、んくっ……じゅるるるっ、んく、んく……んふふつ、ビクビクどころじゃないわね……んくっ、じゅるるっ……私の喉を犯そうとしてるみたいだわ……じゅるるっ、んく、んく……」

ナース「しっかり、すべてお出しください。司祭様は、私と先生以上に出し残しを許しませんから」

マリナ「吸われてるんだから、出すとか出さないとかじゃない……ああああっ！」

闇司祭「んぶっ……！　また奥から濃いのが……じゅるるっ、んくっ……新薬の効果ね……まだこんなに濃厚なのが……じゅるるっ、んじゅるっ……」

女医「吸えば吸うだけ、濃いのが出てるくんじゃない？」

闇司祭「そうかもしれないわ……じゅるるるっ、んくんくんく……じゅるるっ、じゅるっ、じゅるるるっ！」

マリナ「んおっ、おおおおっ……！　そんなに吸わないでえ……勝手に出るからあ……」

闇司祭「んっ……！　また……じゅるるっ、んく、んく……じゅるるるっ、んくんくんく……じゅるるるっ！」

ナース「量が多いですね。記録しておきます」

女医「わたしがやるわ」

ナース「では、お任せします」

女医「司祭が吸えば吸うだけ濃厚な精液を放出。司祭の口内が被検体の精液に犯されて

いった……と」

闇司祭「じゅるるっ、じゅるっ……もつと書き方があるでしょう……んくんく、じゅるるっ」

女医「精液を飲み下しながら言われてもねえ」

マリナ「ああ、んああああっ……また呑気にそんなこと……」

女医「だって、わたしは全然つらくないもの」

闇司祭「じゅるるるっ、じゅるっ、んくんくっ……そろそろ、さすがに終わりかしら……」

マリナ「はあ、はあ、はあ……やっと射精しなくなった……」

闇司祭「最後に……じゅるるるるるるるるるるっ！」

マリナ「ぶぐうううううううっ！」

闇司祭「んっ……ちよつと出てきた……これも吸い上げて……じゅるるるるるるっ……んく、んく、んく、んく……ふああっ……はあ、はあ、はあ……」

マリナ「あああああああつ……！　あああつ、あああああつ……！」

闇司祭「んふふつ、ごちそうさま♪　もう啞えてないのに、まだビクついてる」

マリナ（一度の射精で、こんなに……これで、連続実験なんてされたら……）

女医「じゃ、次の実験ね」

マリナ「待つて……さすがに今回は休憩を……」

闇司祭「ダメよ。連続実験なんだから、すぐにやらないと。ナースちゃん」

ナース「はい、司祭様」

闇司祭「注入するのは、いまと同じ新薬のほう。それで、実験ほうほうは……」

女医「一応、医者わたしが断言するわ。あなたには命の危険はない。もし本当に命の危機に瀕するとわかった場合は、わたしが止めるわ。ここは病院で、死者を出すところじゃなくて、命を助ける場所だから」

マリナ「本当でしょうね……」